

紅葉狩の字幕資料

001：季節は秋。場所は山の中。

002：舞台では女たちが酒宴を開いております。

003；彼女たちは、秋の美しい景色を楽しんでいます。

004：木々の葉は、赤くなっています。

005：付近を歩く、維茂（これもち）と彼の家来。姿の美しい維茂が女性たちに気がつきました。

006：そこで、維茂は宴の様子を見て来なさい、と従者に命じます。

007：すると、彼女たちが、維茂と彼の家来に対して、一緒に山の美しい景色を楽しもう、と提案しました。

008：更科姫が現れます。姫の美しさに思わず維茂と彼の家来は驚きます。

009：姫の召使いである女性たちは、維茂を酒宴に誘います。

010：維茂と家来は、勧められるがまゝに酒宴となりました。

011：まず維茂と姫が一緒にお酒を飲みます。その後は維茂の家来と姫の召使いたちもお酒を一緒に飲みます。

012 : やがて、維茂が姫に向かって、私のために踊ってください、と希望します。

013 : 召使いたちもまた姫に向かって踊ってください、と希望します。

014 : 姫は、ちょっと恥ずかしいので、すぐに踊りませんでした。

015 : 維茂は少し、酔いが回っています。彼は、姫に対して、強く、踊りを踊るように希望しました。

016 : 姫は、扇と紅葉を持って、踊ります。

017 : 次第に、あたりは、怪しげな雰囲気になります。維茂と家来は、眠りの世界に入ります。

018 : 次第に、姫の様子が変わります。姫から美しさが消えて、邪悪な姿が見えてきます。

019 : 美しい姫の顔が恐ろしい鬼の顔に変化します。注意深く、姫の顔を見ると、完全な鬼の顔ではありません。

020 : 鬼の顔になる前の顔を生成（ナマナリ）と言います。

021 : 怖い顔となった姫は、維茂を睨みつけて舞台から去っていきます。彼女の召使いも舞台から去っていきます。

022 : 山神が登場します。「おゝ、^{あわ}吾は八幡大神の^{めい}命を^{こうむ}蒙りまかりこしたなり」と唱えます。

023 : 維茂とその家来の目を覚まさせるため、眠っている維茂に向かいます。

024：「のうのう如何に平維茂 今までこれにありつる者 戸隠山の鬼女なるぞ 永い至さば いとも危うき事なるぞ 早々下山致すべし」と、謡います。

025：維茂と彼の家来に近づき、何度も何度も起こそうとしますが、鬼女の魔力にかかった彼らは、なかなか目が覚めません。

026：最後に山神は、刀を維茂の手元置き、神通力を授けます。

027：ハッと目を覚ました維茂。手元の剣を見つけ我に返り、家来を起こします。

028：維茂は、自分家来に鬼女を追いかける様に命じます。従者たちは、びっくり慌てふためきながら鬼女を追いかけます。

029：狩衣の袖を括り上げ、戦いの準備をした維茂も鬼女のあと追いかけます。

030：維茂の手には山神から授かった太刀。姫は完全な鬼女の姿となり、髪の毛は黒い垂毛から赤い振毛に、手には杓杖を持っています。

031：舞台上、激しい戦いを繰り広げ、魔力を持って鬼女が維茂を封じ込めます。

032：維茂を殺そうとすると鬼女。霊剣の神通力が立ちはだかって、なかなか維茂に近づくことができない鬼女。

033：鬼女は「蜘蛛の糸」を維茂に投げつけます。

034：強大な魔力によって、維茂は力を奪われてしまい、倒れてしまいます。

035：しかし霊剣の神通力が目覚め、維茂は鬼女の喉元を突いて鬼女を退治します。

036：苦しむ鬼女は、悔しさを露わにして戸隠山から逃げていきます。

037：鬼女を見送った維茂は、「信濃なる 北向き山の 風誘い 妖^{あや}し更科 疾^とくと散りけり」と
謳い、幕となります。

以上